

あつそ 且来VI遺跡発掘調査現地公開資料

令和3年3月25日（水）
午後1時30分～2時30分

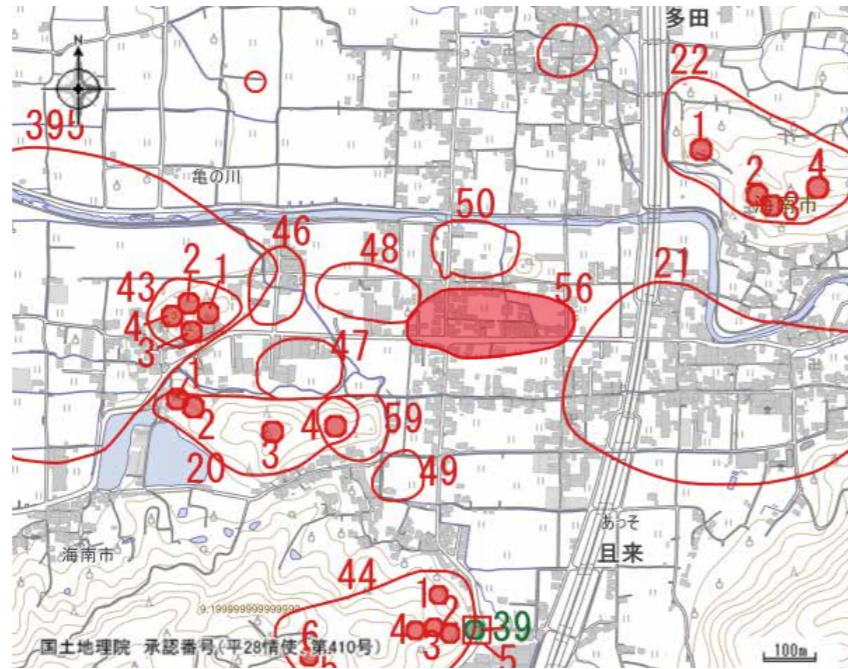


図1 且来VI遺跡と周辺の遺跡

- 27 亀川遺跡
- 46 岡村遺跡
- 50 且来V遺跡
- 56 且来VI遺跡

『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』一部改変

◆はじめに

公益財団法人和歌山県文化財センターでは、和歌山県（海草振興局工務課）から委託を受けて、秋月海南線道路改良事業に伴い、且来VI遺跡の発掘調査を実施しています。調査は、令和2年11月から約970㎡を対象としており、調査は交差点の西側を中心に5区に分け実施しています。

◆且来VI遺跡とは

且来VI遺跡は、且来I～VI遺跡によって構成される且来遺跡群の一つで、海南市の北西部、亀の川流域に位置している弥生時代から奈良時代の集落遺跡です。過去に県道小野田内原線道路改良工事に伴って発掘調査が実施されており、弥生時代中期中葉ごろに埋没したと見られる溝が複数検出されています。

◆発掘調査の成果

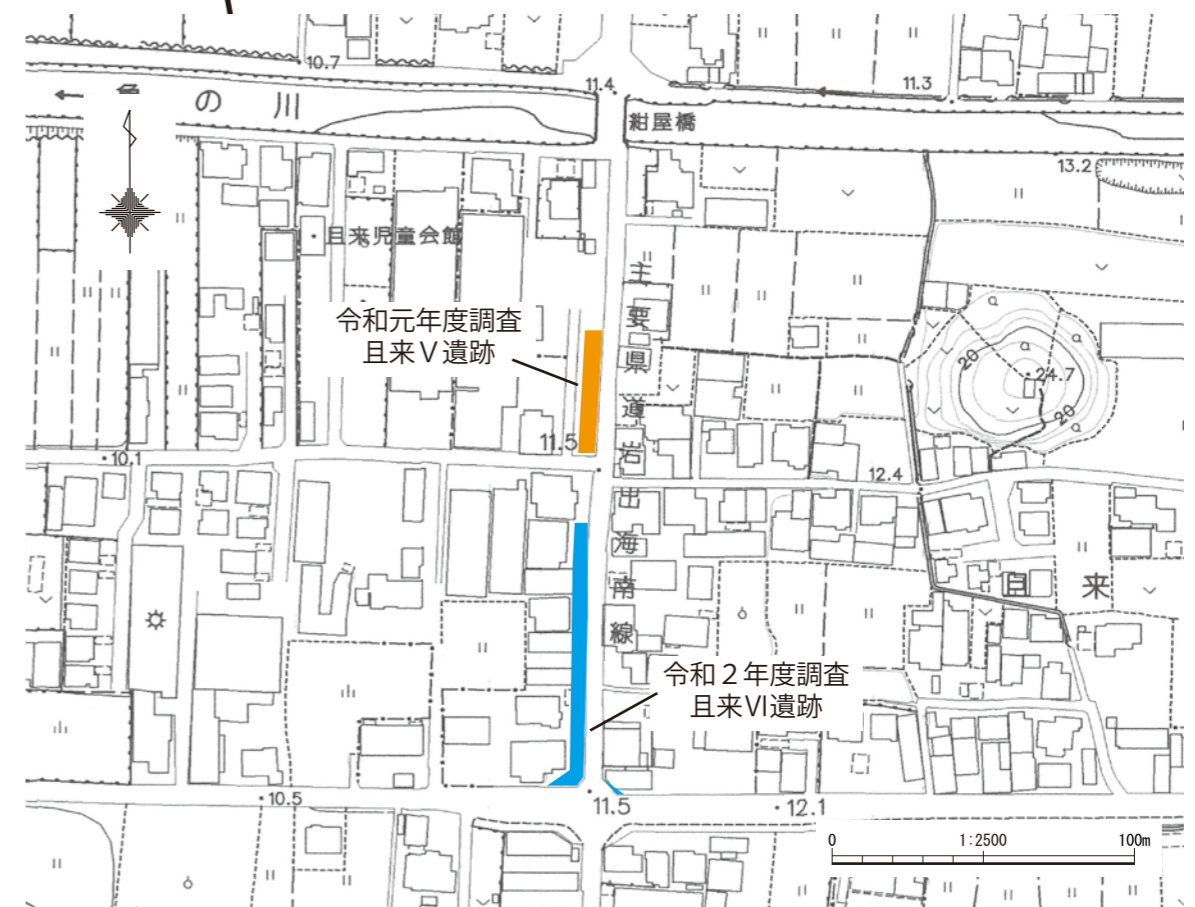
発掘調査の結果、古墳時代から古代にかけてとみられる溝や柱穴、土壇と、弥生時代中期から後期にかけての溝や柱穴等を確認しました。特に2-2区では、方形周溝墓（弥生時代の代表的なお墓の形）の溝の可能性が高い遺構から、穿孔の痕跡が残る弥生土器の壺が出土しています。

◆まとめ

亀川平野では、これまでの調査で岡村遺跡（46）で中期とみられる溝が検出されたほか、亀川遺跡（27）においても中期の竪穴住居が多数検出されており、多数の土器・石器が出土したことから、両遺跡が亀川平野における弥生時代中期の中心的な集落と言えます。今回、両遺跡の中間に所在する且来VI遺跡で、弥生時代中期とみられる遺構や土器が見つかったから、且来VI遺跡も含めた弥生時代における周辺の遺跡の集落や墓域の展開などを検討していくことが可能になったと言えます。



溝の中から見つかった弥生土器と溝（完掘後）



確認した溝や土壇等の遺構